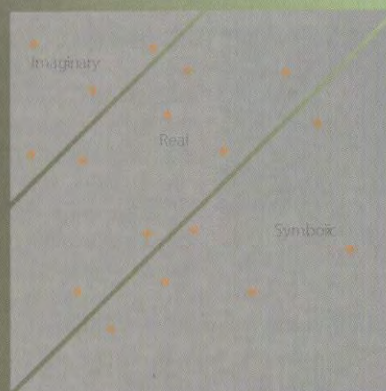


卒業研究作品選集

愛知産業大学 通信教育部
造形学部 建築学科



ASU
AICHI SANGYO UNIVERSITY

2012

建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

本学科は、工学系、美術系の枠にとらわれず総合的な造形としての建築を学んでいただき、21世紀にふさわしい建築の設計者や建築の知識を持って社会に貢献できるキーパーソンを育成することを図っています。

常に空間を意識した建築造形の能力、社会の課題や要請に的確に答える資質を養うために、工学、美術、芸術、社会科学や一般教養などでバランスよく構成された豊かなカリキュラムを用意しています。建築造形、建築設計、CAD、構造構法、力学の演習科目を中心に建築の各専門分野から幅広く学べます。さらに大学教育の集大成として卒業研究に取り組みます。

通信教育は情報化社会、生涯学習の時代に適した教育システムです。社会人が効果的に通信教育で建築について学べるよう、通信科目やスクーリングの内容、学習方法については工夫を凝らし常に改善を加えています。

愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科は、豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な視野で建築をとらえてこれからの社会を考えられる力を身につける教育の場を提供します。



越前谷 智 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができれば社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしの

げるだけではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会

人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけ多くの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話しですが、「力士がまわしをつけるのと一緒で、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、無理なく取得できるよう配慮しています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。受験対策では、無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに学科、校友会(卒業生の会)では資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をバックアップしています。

しっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、無理なく取得できるよう配慮しています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。受験対策では、無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに学科、校友会(卒業生の会)では資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をバックアップしています。

スクーリング会場(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は在住地を問わず、各地から学びに來られます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講(面接授業)の利便性を考え、現在はスクーリング会場を各地から利便性の高い東京と名古屋におき、遠方でも受講しやすい運営態勢をとっています。また大阪や福岡においても提携

の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京と名古屋では建築学科で卒業に必要なスクーリング全てを開講し、週末以外に水曜日にもスクーリングを開催しています。更にスクーリング以外でオープン教室(自由参加型学習会)を定期的に行い、学習サポートを行っています。その他、インターネットを活用し、eラーニングやWEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。

さてこのたび、通信教育部造形学部建築学科では、今年度の卒業研究総数約 100 点が最終審査に合格いたしました。この冊子はその研究成果が優秀であるものを 17 点、選出いたしました。社会人やダブルスクール（通学の専門学校と通信制の大学）の制度で学ぶ併修性含め、様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。

本学のあります愛知県では毎年この展覧会（名古屋展）を開催し、東京での開催（東京展）も既に7回目となりました。特に名古屋展では現役の建築家を迎えての公開講評会も会期に併せて開催し、3回を数えました。

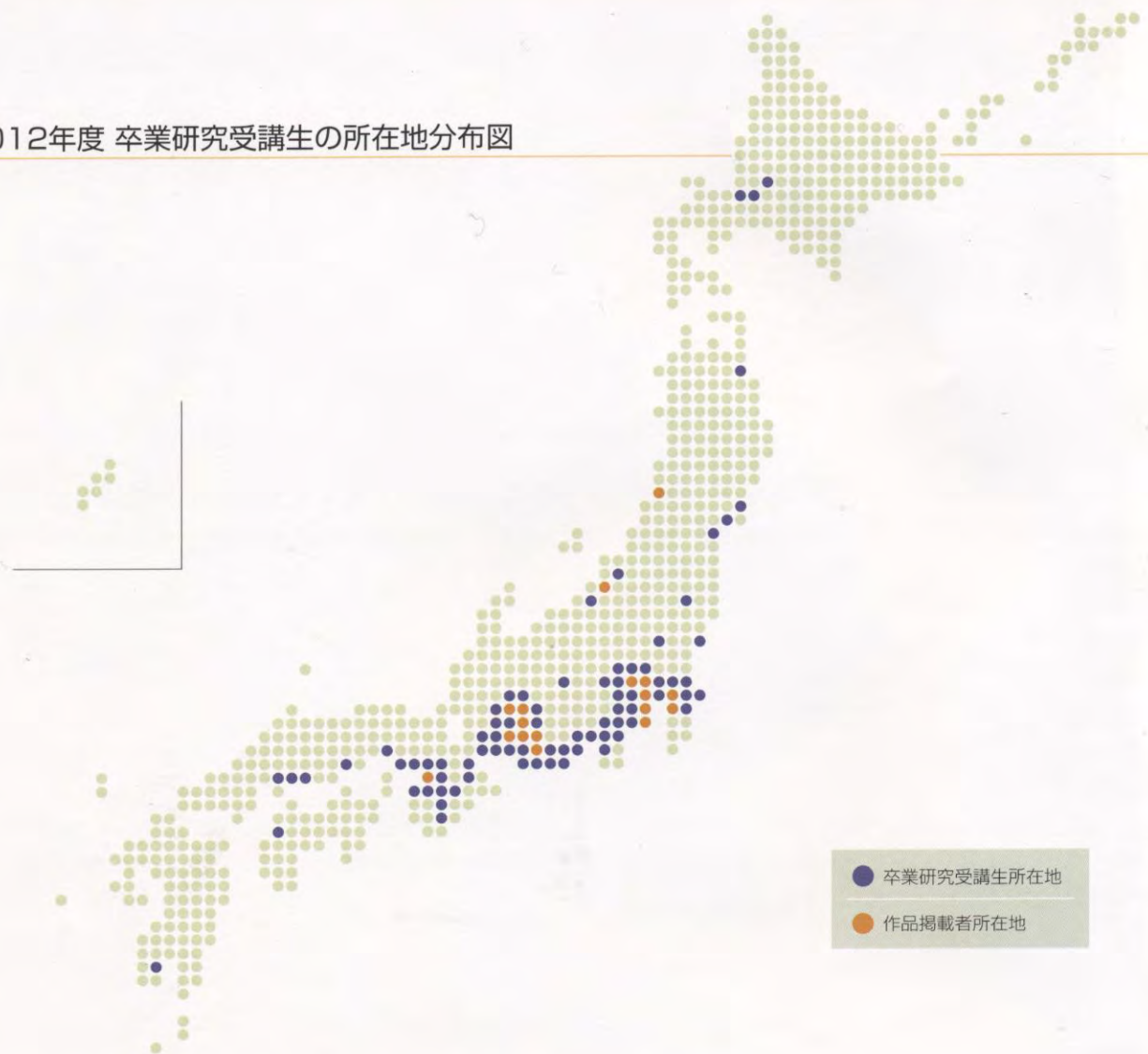
特に優れた卒業研究には学科より卒業研究賞を授与しております。また学外の展覧会等へも出展してまいります。

今後とも、優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けてまいります。引き続きご指導ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

愛知産業大学 通信教育部

造形学部 建築学科主任 越前谷 智

2012年度 卒業研究受講生の所在地分布図



2012年度 卒業研究の分析とトレンド

※コンセプトの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行った。

コンセプトの分析によるトレンド

	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	街	建築	空間	人	空間	道
2 位	空間	地域	人	空間	施設	施設
3 位	人	人	森	建築	人	まち
4 位	商店街	土地	地域	場所	都市	人々
5 位	文化	人々	時代	場	生活	周辺
6 位	流れ	計画	光	街	地域	交流
7 位	歴史	住宅	建築	地域	日本	文化
8 位	建築	道	計画	施設	場	森
9 位	家族	公園	人々	商店街	環境	壁
10位	生活	学校	地域力	人々	街	集合住宅

コメントの分析によるトレンド

	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	街	建築	空間	空間	人々	都市
2 位	建築	作品	作品	都市	街	デザイン
3 位	空間	空間	建築	作品	建築空間	施設
4 位	都市	街	都市	建築	人	建築空間
5 位	人	都市	施設	場所	空間	可能性
6 位	計画	地域	提案	場	空間性	造形
7 位	提案	学校	人	造形	研究	敷地
8 位	自然	場	建築空間	災害	都市	空間
9 位	商店街	可能性	川	商店街	施設	環境
10位	造形	木	スケール	社会性	世界観	流れ

2012 年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

選出作品	賞など	タイトル	氏 名	掲載頁
		いえのまち 遺後温泉の再生	青木 裕佳	
		空と大地の交信 ～地下博物館～	赤木 健太	
		築地市場の移転後計画 つなぐ	秋山 佳映	
		祝祭のあと・・・ ～ Arts and Cities そこに残したもの ～	在原 由佳	
		富士を望む集合住宅 都会から離れた豊かな住まい方の考察	伊賀 洋平	
●		集まる・潤う・安らぐ ゆるやかにつながるSOHOのある住まい	井川 美穂	11
		想う人の時を紡ぐ	生田 祐介	
		開かれた美術館	池田 裕樹	
		LEAF SCHOOL 学校と地域の関わり	石橋 敦士	
●	松	Pink Noise 花揺らぐ観想空間	井手尾 美希	
		imitation green	伊藤 大輔	10
		旅する宿 四国道路に点在する宿たち		
		Other People Family ～新しい家族の単位～	伊藤 祐基	
		市民の集う駅舎 前後2112	伊藤 渉	
●	守	荒神山飛行研究所	狗田 将明	12
		Ramble ～自然に抱かれる場所～	井上 淳太郎	
		GENOME-FLOAT -自己増殖型海洋都市-	今井 秀樹	
		coral reef 野田市生涯学習センター	井村 綾介	
		空き地やシャッター通り商店街となつてしまった中心市街地の再生	馬峰 和則	
		かやのにわ かやのきのある複合施設	大木 由紀子	
		Forest Circle	小笠原 有希	
		北海道の市町村の屋根形態の傾向と諸問題 (論文)		
		complex	岡田 芳幸	
		長野の宿泊リゾート施設	奥村 彰規	
		光と風と冬の雪と 雪ムロを生かした集合住宅	小野 正利	
		繋がるかけはし	梶葉 さなえ	
		悠久の丘 身近な史跡を通して自分たちのルーツを探る	勝又 正史	
●		今に残す町並み	加藤 健太	
		Nagoya DoubleMean	神谷 圭紀	13
		まちなかのエコスクール	川崎 玲子	
		Net Playground ～遊びと交流の場～	川島 徹哉	
		都会のバッシブソーラーハウス サステナブルな人間の未来のために	北村 正典	
		La maison d'arbre artificiel カオス数列に基づく配置によるフラクタル安定構造体の提案	倉田 憲一	
		Port in Seto Inland Sea 瀬戸内に浮かぶ港	椋橋 創	
●		セミラミスの庭 ～植物たちの空中庭園～	黒木 勇太郎	14
		TUNAGU	小坂 直人	
		山と建築	小島 光昭	
●		Dear roots 都市部における故人を偲ぶ空間の創設	小谷 政明	15
		緑と光に浮かぶ家	小林 綾乃	
		海の家	小林 慎人	
●	卒、シ	隅田川貨物駅の複層化 ビオトープ 森をつくる	小林 美保	
		～Next～ 柳ヶ瀬	近藤 宏亮	6,7
●		転成する飲食街 歌舞伎町新駅舎計画	斎藤 洋一郎	
		The contact town ～新たな商店街を目指して～	酒井田 真治	16
		Ballon Connection ～老人を元気にするために～	阪口 真衣	
		天草 Mother Sea 天草の大自然を五感で味わう		
		A Concentric Circle	佐藤 まどか	
		「中川運河 CANAL ART」× nakagawa canal house	島田 正和	
●	商	「本の広場」 本で繋がる新たな公共空間の創造	鈴木 敦	
		路地の枝葉 都市型コミュニティのかたち	鈴木 菜都	9
		VELO MUSEUM (ヴェロ ミュージウム) -自転車の街・湘南・茅ヶ崎市-	鈴木 未歩	
		旅路 ～自分探しの旅～	鈴木 祐太郎	
		ひと生きるヒト 3世代家族のための週末の家 ～つなぐための余白～	高田 明子	
●	卒	災害を乗り越える空港設計	高橋 祥	
●		雁木がむすぶ	高橋 裕子	8
		水上コンプレックスシティ	田中 麻子	17
		つなぐ 公団集合住宅の再生計画	田中 由里子	
		SHIMA BEACH GARDEN	田畑 一	
		憧憬 ～adoration home village～	爲政 咲乃	
		地域に開かれた大学キャンパス 旧公団住宅跡地を生かした街の再生	刀根 康裕	
●		PIPPA-KU World Piano Park	中川 振二郎	18
		Ichthys～海の教会～	中筋 浩和	
		Forest of the book	永田 彰啓	
		学びに目覚めた大人たちの街 学ぶ者たちに応える街	中谷 雅子	
		河口 川が海に流れ込むところ	長縄 泰明	
		再建避難所	永松 宏賢	
		SEED COMPLEX 子を育て、人を集め、地域を豊かにする提案	中村 雅俊	
		新しい形の街なか (小中一貫) 公立学校 パブリック空間の占有とプライベート空間のシェアリング		
		古い若きも助け合って暮らせる集合住宅 誰もが先生、誰もが生徒	中山 直人	
		じいちゃんばあちゃん! シルバーボランティアセンター～夢をつなぐ～	西口 三紀	
		Art Line アートで繋ぐ市町村の絆 十和田観光電鉄跡地の利用と地域活性化		
		つなぐ	野本 恭平	
●		国際色豊かな下宿 ー言語と文化の交流ー	馬場 恵子	
		人々をつなぐ・癒し・希望へと導く空間がここにある ～ふたつの役割をもつ空間は人々を祈りの空間へと誘う～	平松 里香	19
		熱田の森と商店街	藤井 洋平	
		渋谷の余白		
		交差する場所	堀場 るみ子	
		遊べる小学校	増田 亨	
		遠い時代を思う建築 「道の途中下車」鬼怒川化石ギャラリー	増淵 政司	
		「子供と地域をつなぐ」 子供は多くの人に見守られ成長するべきである	町本 大輔	
		つながりのわ	的場 洋次	
		通 阿佐ヶ谷アーケードの再開発	丸山 佳奈子	
		生まれ変わる街 路地でつながりコミュニティを再生する	水谷 秀雄	
		Takasaka Wooden Hat 高級ニュータウンに必要なもの		
		MORNING GLORY	水野 弘章	
●	卒、AIJ、近	Meditation Alley 交流する・瞑想する街	湊 吉央	20
●		伝統文化教育施設「まほろば本舗」の設計 都市と農村をつなぐ事を目的とする建築に関する研究	宮内 均彰	4,5
		栗沢の夕焼けが見える助産院 田園風景の中で安心して赤ちゃんを産める場所	三輪 知子	
		おかえりなさい、森のわが家へ。 新しい葬送のかたちと憩いの場		
		眠らない空間	守政 幸志	
		緑の中のアートライブラリー ー自然の中の憩いの空間ー	安井 幸治	
●		新宿スカイフォレスト 緑と水でコレマデとコレカラをつなぐ	八尋 陽子	21
		土地の記憶 岡山城二の丸・西の丸跡再整備計画	山岡 正嗣	
●	守	静岡県焼津市役所新築計画 The RIBBON		
		日本に樓う	山本 ヤウ	22
		ART AVENUE CREATOR'S COMMUNITY		
		「空舟」 ～水の都町をもう一度～	渡邊 聡	

卒:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科卒業研究賞 AIJ:日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会 大学推薦出展
 近:近代建築別冊 全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集 大学推薦掲載 シ:学生設計優秀作品展(レモン展) 大学推薦出展
 商:商業施設技術者・団体連合会会長賞 大学推薦 守:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科守屋賞 松:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科松本賞

※指名空欄は本人希望により非掲載
 総数 97作品

model



model & work panel



concept

千葉県印西市日本埜村において、隣接する都市と農村の交流を進める建築を提案する。伝統文化を橋渡し役として両者の交流を図る。建築は里山に築き、そこに溶け込むようなデザイン性を研究する。

comment

ニュータウンが抱える問題と農村が抱える問題を同時に着目し、互いが補完しあう関係性を生み出そうとする提案である。そこには都市化しようとして人々が失ったものと、都市化できないことで人々が失っているものを建築によって補いあえるのか、という現代が抱えた根源的な問いが潜んでいる。里山の美しい景観を壊すことないように配慮されたデザインは、人々の交わりを喚起する可能性を感じさせる。

(担当教員：伊藤 潤一)

Masaaki Miyauchi

宮内 均彰

千葉県在住
電気機器メーカー技術職
33歳



自分の家を目で作りたいというきっかけで入学しました。工学部出身という事もあり建築を単に構造物として捉えていましたが、先生方からの学びを通じて建築の造形的「美」のすばらしい視点に気付きました。これまで単なる背景であった建築が視覚の主役になり、「見る」楽しみを覚えました。また設計科目や卒業設計を通じて「造る」事へのワクワク感を覚えました。今後の建築業界への進路は未定ですが、建築とはなんらかの形で一生付き合っていきたいと思っています。

model



work panel



concept

対象地は岐阜市柳ヶ瀬の商店を含むゾーンです。現在の商店街は買い物を楽しむ空間に相応しくない。薄暗く、楽しくもなく、人も少ない商店街で買いものを楽しむことは不可能である。どうすれば商店街が良くなるか、それは商店街と公園の一体化を混ぜあわせたらどうだろう。そうすることで閉鎖的であった空間が開放感あるものになり、ただ買い物をするだけでなく遊ぶ要素を取り入れることで買い物が楽しくなると考えた。

comment

わくわくする夢のような商店街をつくりたい。岐阜市柳ヶ瀬が計画対象地。柳ヶ瀬の商店街も御多分に洩れずシャッター街化が進み、様々な努力にもかかわらず衰えがめだつようになっている。なんとかしなければ……。誰もかと思うことにちがいない。そこで作者は考えました『誰も考えたことがない方法』はないか。その答えは、今の商店街をバラバラに解体し公園と混ぜ合わせた上で再構築したらどうかと。その結果、ご覧いただけるようにこんなに楽しそうでやさしいまちが出来あがった。

(担当教員：宮武 仁)

Kosuke Kondo

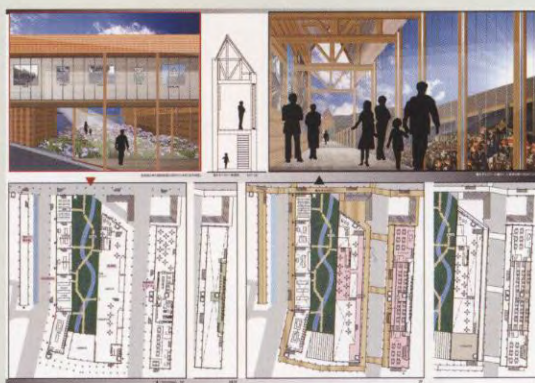
近藤 宏亮

岐阜県岐阜市在住
併修生（東海工業専門学校
金山校）
21歳



私は通信教育部に入る前は専門学校で建築基礎を学びました。しかしデザインのことは教えてもらってなかったため通信に入りました。私はこの4月から地元の会社に入社が決めています。通信で学んだことを少しでも生かして一日でも早く立派な技術者になりたいと思っています。

model & work panel



concept

雪国の暮らしを守り続けてきた『雁木』は「助け合い、譲り合い」の心をつなぐ「人にやさしい街」のシンボルです。

私はこの雁木を2階建て回廊にする設計に挑みました。この2階回廊は雪に埋もれること無く冬景色を堪能し、夏には新発田祭りの興奮に包まれます。ガラス窓で保温され、背にはギャラリーの壁面を備えるため、幅3mの回廊は新しいコミュニケーションの空間として機能することができます。さらに、美術館、レストラン、地元商店長屋、街のこし展示館の建物を回遊でき、城下町の歴史資産への導入路となっているため、地元住民と観光客の交流が生まれ、街を活性化します。

こうして、雁木が人と人との心をむすぶのです。

comment

雁木空間を地元の発田祭りのためのギャラリーと観客席として現代的に再構築しようとするものである。古き良き街並みを保存しながらも、新たな解釈と機能性を付加していくことで、時代に呼応した街並みを再形成していく良案である。商店長屋と地産地消レストランによる経済の活性化、美術館による地域の歴史と伝統を継承する発信基地として役割が混ざり合いながら、街に新たな回遊性を作り出し、街おこしを行っていく姿が目に見え、地元を愛するやさしさに満ちた提案となっている。

(担当教員：伊藤 潤一)

Yuko Takahashi

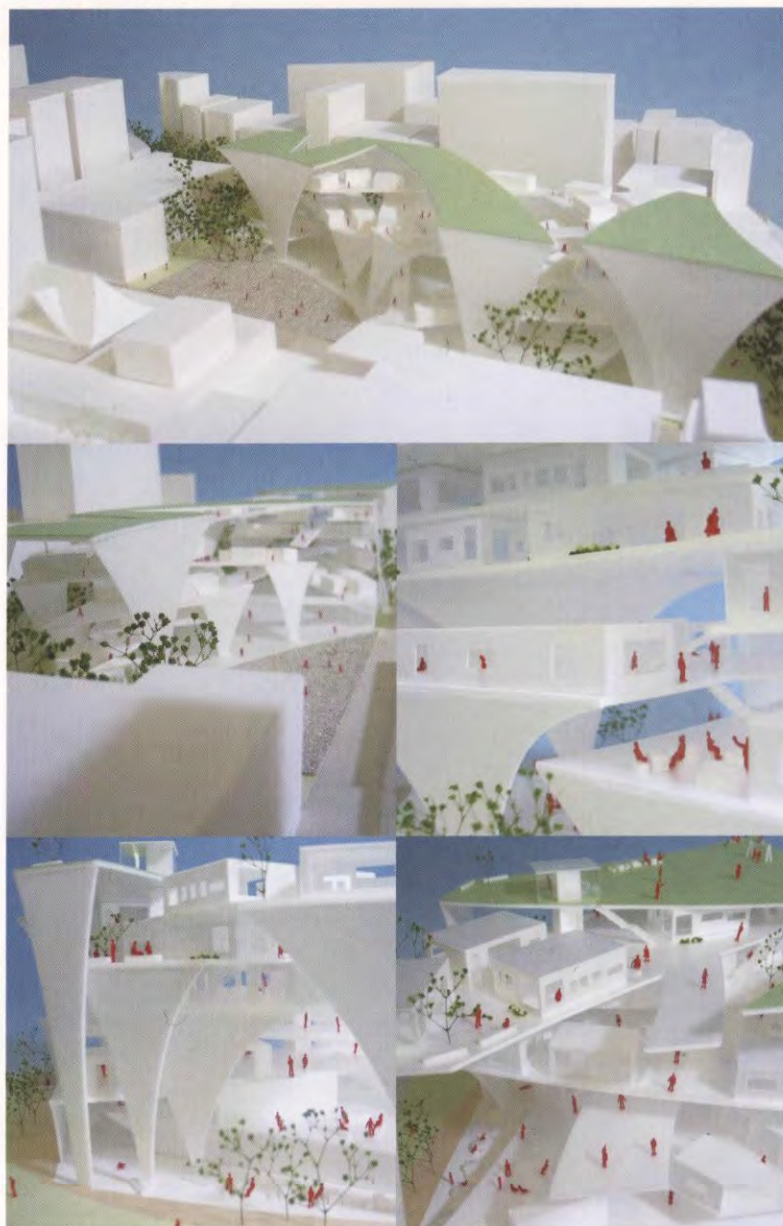
高橋 裕子

新潟県在住
元福祉施設事務


2年で卒業する事を目標にしたものの、通学とは違い、日常の中で学習時間を確保し、とにかくやらなければ何も進まないで、常に自分の怠け心との戦いでした。かなり負けっぱなしでしたが、そんな時、スクーリングやゼミで出会った皆さんに励まして頂いたり、助けて頂いたりしながら、お陰さまでなんとか卒業制作も終え、2年で卒業というゴールも見えてきたのかな?と思います。

皆さん、ありがとうございました。皆さんに出会えた事に感謝しています。

model & work panel



concept

都市ではプライバシー重視型の生活が営まれ、人と人との関係は希薄になりやすい。しかし首都圏直下型の地震が心配される今、コミュニティの必要性が見直され始めており、建築によってそういったコミュニティの形成を促進し、その持続性を高めることができるのではないかと考えた。

本計画では、ヒューマンスケールに合った路地空間を複層的に配置し、さらにヴォイドを通じてそれらに立体的な関係を持たせ、多様な距離感をつくりだした。おとなりや向かいだけでなく、縦方向との関係性も生まれ、生活しながら周りの様子を感じることができ空間を目指した。

外観デザインには、生活路として使われている既存の緑道の木々の重なりをモチーフとした。

comment

花園神社を有するこの歌舞伎町界隈は戦後の闇市から発する独特の怪しい雰囲気を残す新しい下町地域である。周辺が高層化し高密度都市へと変貌していく中、唯一取り残された楽しいポケットパークのようにすばりと温存されてきた。昔からの暗渠の路や細い路地、暗くごちゃごちゃと間口の狭い飲食屋が乱立する。彼女はこの複雑な地域に繋がりや強さと魅力を感じた。何とか東京の背景に飲み込まれず下町の素敵な文化性やコミュニティを残したい、そんな願いをこの作品に託したと思う。当初は全体を起伏のある公園の街区を思い描いていたが、後に一時的な面白さや空間造形の奇抜さを追求める事なく、既存の下町コミュニティの延長線を越えた将来の都市防災や高度利用といった時代の趨勢と経済性へも言及した立体的な下町を構想する事となる。ここでは平面的に広がっていた路地構成の繋がりをパーティカルに捉え直し水平面と縦軸、それらを縦横無尽に繋げる新たな大地や路地群により、古くからの住民の顔や生活感が見え、新住民も受け入れられる土壌を耕し新しい下町コミュニティの有り様を提案できたと思う。新たな大地ではあちらこちらに再び一杯飲み屋やおしゃれで素敵なカフェも生まれつつある。衰退していくに任せていた下町が、そんな進化し続ける魅力ある街に生まれ変わり希望を与えてくれる作品である。

(担当教員：白濱 力)

Nana Suzuki

鈴木 菜那

東京都在住
店舗設計・施工会社勤務
30代



内装の設計・施工の会社に勤務しており、スキルアップを図る目的で愛産大に入学しました。ふだん平面的に空間を捉えがちだった私は、建築の空間の考え方がよく分からず、いつもいっばいいっばいでスクーリングをこなしていました。なんとか乗り越えることができたのは、先生方のご指導やスクーリングを通してできた友人の存在、ゼミの仲間のおかげです。本当にありがとうございます。仕事との両立や課題提出に追われ、時間のやりくりは思った以上に大変でしたが、社会人になってからの学生生活は充実していて、学ぶ楽しさを感じることができました。卒業後は二級建築士の資格取得を目指し、勉強を頑張りたいと思います。

併修校（専門学校と大学とのダブルスクール）からの卒業生の卒業研究には、若い世代ならではのひらめきを感じさせる感性豊かな作品が多く見られます。その中で特に印象深かったこの作品に今年度の「松本賞」を授与しました。

model & work panel



concept

都心の中に自分の領域が生まれる集合住宅の計画、外部からの視線を遮った緑の空間は完全な自分の領域となる。

comment

卒業研究のテーマで居住施設が取り上げられる事が近年顕著に多くなっている。未曾有の大災害もあり、生きる場所として居住空間に関心が強くあるのだろう。この流れから考えると、何十年も問われ続けている人と人との結びつきや地域コミュニティのあり方が研究テーマの主流となりそうだが、彼の提案は全く違う視点を持っている。対象地は名古屋の商業的都心部の真ん中で、居住対象者は若い独身者だ。そこで求められているのは一人になる時間と空間である。都市のただ中で他者との関係を絶ち、つくられた人工的な緑や不整形に切り取られた空と対面する空間がこの計画の核となる。都市の流動性との境界面には商業施設や集客施設が並び、その近傍にはそれらと結びつく職住一体利用を想定した住居も計画されている。しかし、都市的な活動を終えて、自分と向き合う「孤独で無為な時間」こそ、現代の情報過多の世界で人々が求めていることに彼は気づいているのだ。

(担当教員：丹羽 哲矢)

Daisuke Ito

伊藤 大輔

愛知県丹羽郡扶桑町在住
併修生（東海工業専門
学校金山校）
22歳

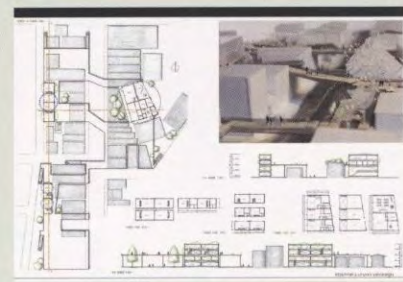
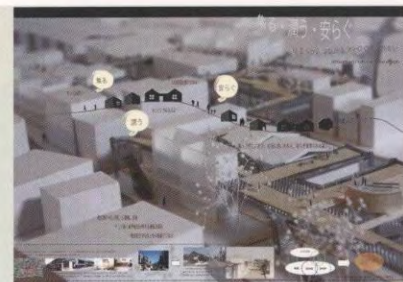
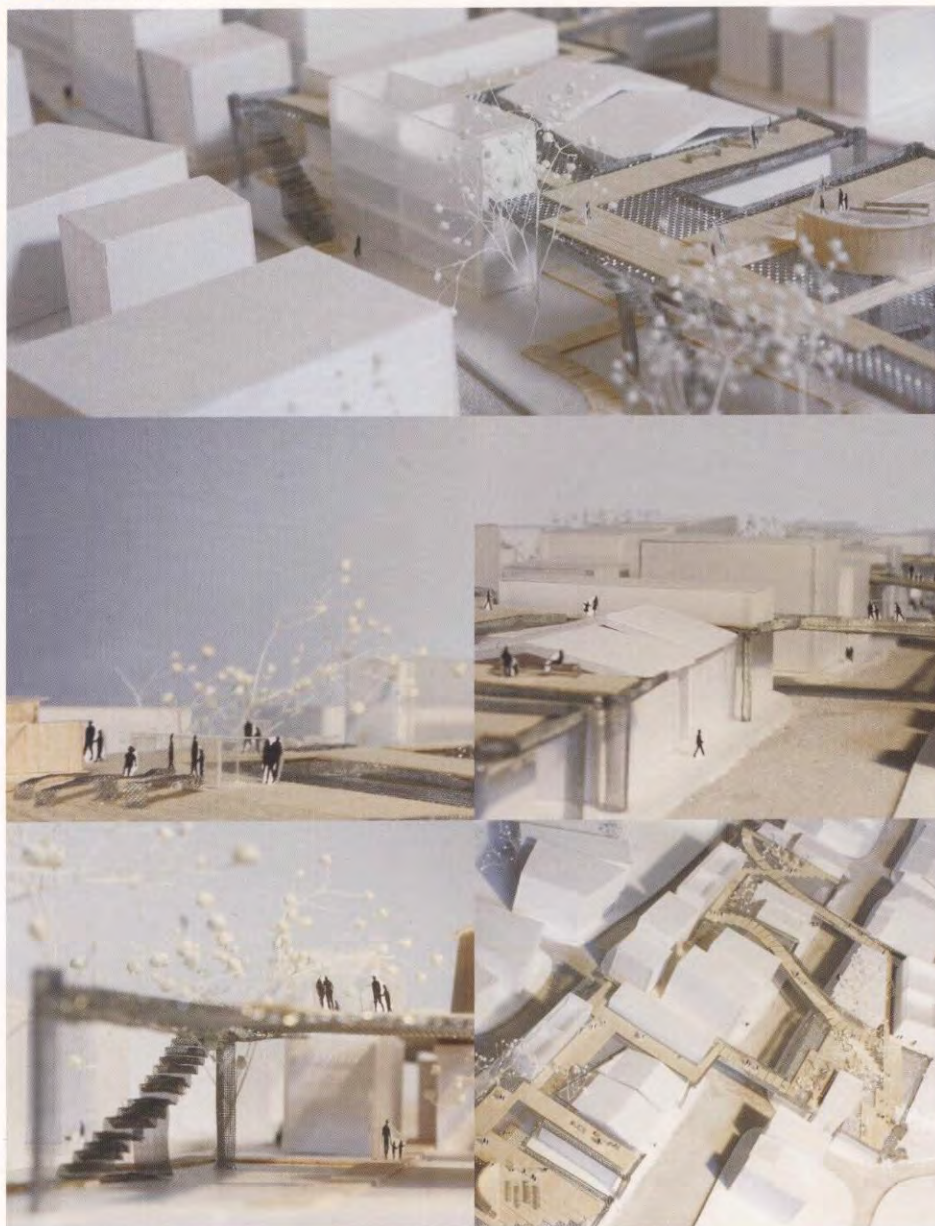

今まで建築の知識を中心に勉強してきましたが、造形の勉強についてはしっかり学んだことがなかったため、大学通信教育を受けることにしました。

この通信教育を通じた二年の道で、自分の建築に対する価値観が大きく変わったのは間違いないです。ここで学んだことは建築の道に進む上での一生の財産となりました。

四月から住宅会社に働くことになります。住宅の全てを知りたい、これからも日々勉強していきます。

最後に東工専の仲間、サポートして下さった川田先生、建築というものを教えて下さった担当の丹羽先生、そして大学の先生方、同じ丹羽ゼミだったみんな、そして毎日見守ってくれた両親、本当にありがとうございました。

model & work panel



concept

自由に、いろんな人が、互いの気配を感じながら、ゆるやかに関係を築くことのできる集合住宅（街）をつくりたいと思った。そこで商店街という街路に着目した。そこには地域を穏やかに見守り、人と人をつなげ、安心を築く仕組みがある。男女ともに生涯仕事と関わり合う者の多い昨今、住まいの中の仕事場 SOHO をはじめ、住宅や店舗、そして働く者や地域を支える機能をその商店街の中に混在させ、更に空中街路でつなげる。それらを既存の通りで展開する。コミュニティの必要性が再認識される今、時代に合ったコミュニティ形成の仕組み、多様なライフスタイルに対応できる場、自然に人と関わり合える場がもっと必要とされている。

comment

現代の都市空間は、生活の匂いが消え、鼓動が感じられなくなっている。この作品は、そこに「暮らす」事の意味を考えさせてくれる。テラスが住居・SOHO・商店を緩やかに繋いでゆく。このテラスを介し、コミュニティが形成され、広がっていく。ひとつの街の様なこの場所は、建物と人の位置が近く、親密な距離感のある心地よい空間である。何か懐かしく感じられると同時に、新しさも感じる事ができる。商店街の再生が難しいとされる今、商店街の中に住まう事が、商店街再生のひとつの提案にもなっている

(担当教員：木下 太)

Miholgawa

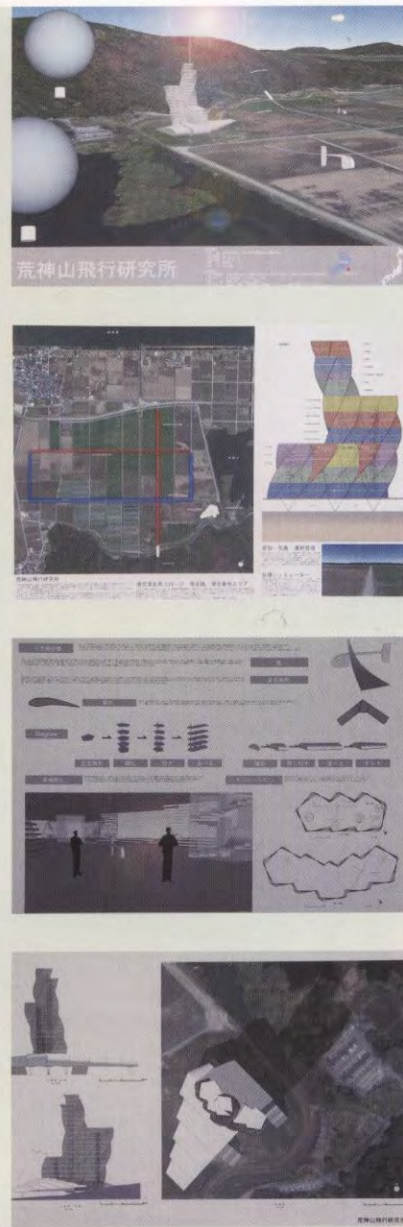
井川 美穂

愛知県在住
30代

インテリアを扱う仕事をしていた中、建築空間そのものを設計したいと考えるようになったのが建築を学びたいと思ったきっかけです。そして仕事と両立出来る通信制のこの大学で、建築の勉強をスタートさせました。それからの2年間、長いようであっという間でしたが、実際に勉強してみて、奥が深く、ますます建築への興味が湧きました。また課題に取り組む度に、苦しみながらも、その時間が楽しく、様々な先生方やそこで学ぶ方々から刺激を受け、最後には一つの大きな作品に取り組む等、社会人以降なかなかない、いい経験をさせていただき、家族にも感謝です。ここで得たことを今後に活かせ、つなげていきたいです。

「守屋賞」は、2009年度に創設されました。本学科の方針を形づくった守屋弓男教授に因むもので、社会人が自ら仕事や日常で、経験をいかした眼差しをとおして社会の問題を捉え、建築の造形によってそれに応えるという、本学で学ぶ本質が際立った卒業研究に授与するものです。

model & work panel



concept

現代社会は、持続可能な社会の実現のためエコロジーを求めている。一方、ヒトやモノの移動は増えていて、その移動手段は従来の方法から変化していない。他方、自然科学におけるテクノロジーはゆっくりではあるが確実に発展している。人力飛行機は、エコロジーとテクノロジーを融合させた、人間の持つ「自由に空を飛ぶたい」という夢に挑戦する「究極の乗り物」ものではないかと思う。この夢に挑戦するためには、人力飛行機の研究・設計・製作、飛行試験や操縦やパラシュート降下などの訓練を総合的に行う施設が必要ではないかと思い、ここに提案する。

comment

空へのあこがれ。大空を軽やかに飛ぶたい。多くの人が心の中のどこかに潜ませている思いがこの作品の原動力です。この作品の作者は実は職業としてその夢をかなえた人—パイロットです。ところが現実の空の世界は、強大なパワーとコンピュータで大気を切り裂いて行くテクノロジーが支配する世界で、牧歌的な思いが入り込む余地などないに等しいのだそうです。それでもフライト中に見える星空や街の夜景、湧き立つ夏雲など心を震えさせるようなシーンがいくつもあるのだそうです。この作品にはそのような記憶から紡ぎ出された造形がちりばめられています。自らの肉体を駆使して初源的願望に回帰しようとする『人力飛行機』、パイロットとしての経験から生み出される造形。それらが見る者の深い憧れを呼び覚ますとともに、社会人が参加する通信教育ならではの作品と顔がせられる計画に仕上がっているといえます。

(担当教員：宮武 仁)

Masaaki Inuta

狗田 将明

東京都大田区在住
44歳



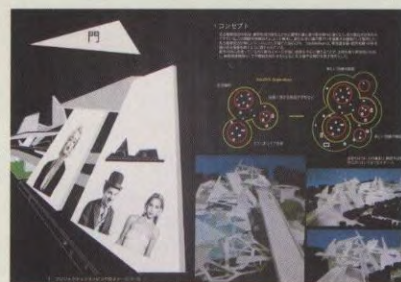
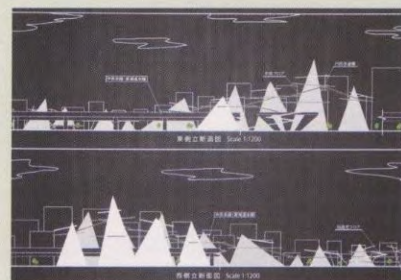
愛知産業大学で学んでみようと思ったのは、建物にとっても興味があったからでした。

建築の様々な分野の学習や教授や講師の方々からの指導を通じ、建築に関するテクニカルな面だけでなく、アートとは何か、デザインとは何かを理解することができたと思います。

今後は、デザインとアートの垣根を超えた作品に挑戦したいと思っています。

Nagoya DoubleMean

model & work panel



concept

政治でも経済でもない、文化を中心として都市形成

comment

Nagoya Double Mean —この作品のタイトルについて少し補足をします。本来建築は、複数の意味合いの重層を内部構造として持っていました。ところが近代になって合理性や機能的性が前面に押し出されるようになると、建築は効率と純化のベクトルに呑み込まれ実用一点張りとなっていました。実は名古屋駅前のゾーンはそんな時代の産物なのです。名古屋の駅前とはつまらないと作者が思うのはもっともだと思います。地域で人が一番集まる場所をもつと面白くすることが出来ないだろうか。その思いがこの作品の出発点です。内包する意味合いをそのまま造形へ昇華できないか。曖昧さをたづなり含んだ建築はできないか。模型を使っでの試行錯誤がここに掲げてある作品にいたりしました。すなわち、シティゲートとしての揺らぐシルエットを持つ造形と映像アーカイブスとしての曖昧な機能の重層。

(担当教員：宮武 仁)

Yoshinori Kamiya

神谷 圭紀

愛知県名古屋市在住
併修生（東海工業専門学校
金山校）
21歳



造形という方向からみた建築の可能性を知ってみたい
と考えたため通信教育の道を選びました。

セミラミスの庭 ～ 植物たちの空中庭園 ～

model & work panel



concept

地球上には約 20 から 30 万種もの植物が生息しており、その範囲は陸上から水上や水中、標高の高い高山から、地下数千メートルまで幅広く分布している。しかし現代にある植物園では限定的な植物しか展示、観察できないのが現状である。

そこで、世界中のあらゆる気候や、土壌環境、温度や湿度を管理できるような温室を複数作り、それをつなぐ形で水辺や地中に研究施設や展示施設を連続して配置していく。

それと同時に、植物の育成環境を考え、温室を地中に配置することによって気温や湿度の変化を最小限に抑え、より良い育成環境を作り出す。

また、温室の内部は 40 m を超える高低差を利用した多層型の構造とし、高さのある植物にも対応できるようにすると同時にそこにいる人に解放感を感じてもらえるような計画にする。

comment

建築物と自然との調和は現代の建築に課せられた大きなテーマの一つです。この作品の立地は名古屋市の東部、市街地と丘陵地が接するデリケートなエリアにあり、まさに、建築と自然との関係についての姿勢が厳しく問われる場所です。そこで作者は建築物の過半を視界外（地下、半地下）に設け、地上へは宝石を散りばめるようにガラスの箱を散在させ、スケールを周辺の自然と合わせつつガラス面への写り込みを見せるという方法を取りました。模型で繰り返し検討され、地上と地下を縫うように展開される空間は、植物研究所という機能とあいまってこの計画を魅力的なものとしています。

(担当教員：宮武 仁)

Yutaro Kuroki

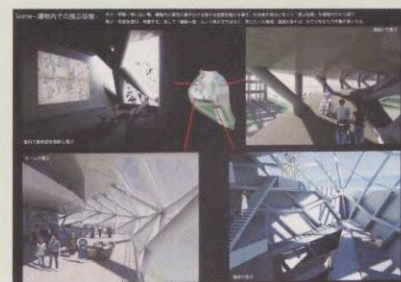
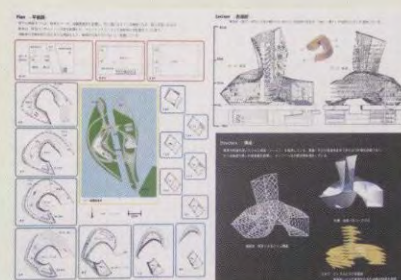
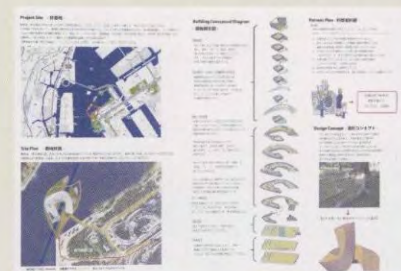
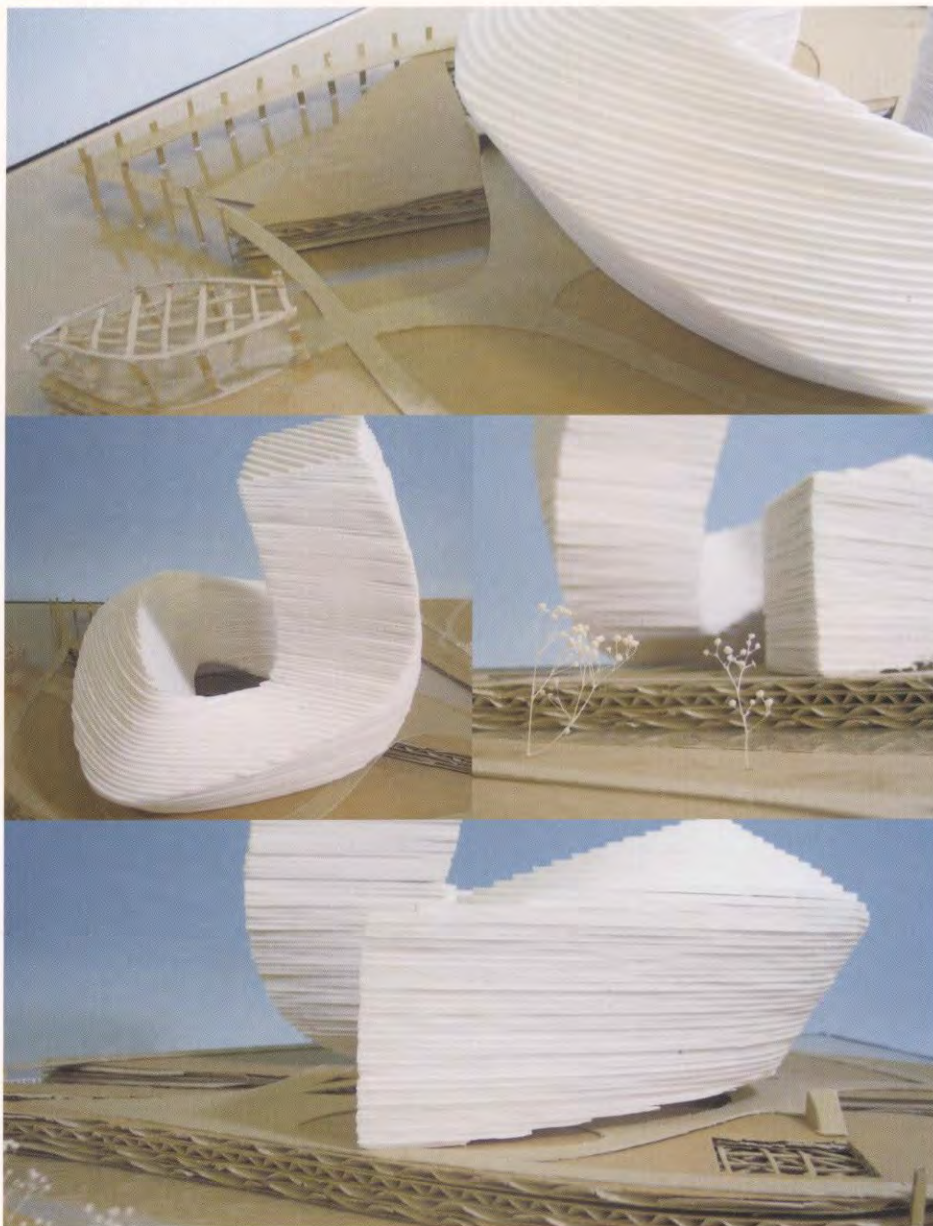
黒木 勇太郎

岐阜県高山市在住
併修生（東海工業専門学校
金山校）
22 歳



建築を造形的な面を見たくて、通信教育で学ぼうと思いました。

model & work panel



concept

現在のお墓に関する制度は「後継者不在、遠隔地・複数の墓地管理負担、霊園乱開発」等の社会問題に見られるように既に制度疲労を起こしている。当研究ではこれらの問題を根底から解決する建築空間を提案する。

【お墓とは何か?】「故人を偲ぶ空間、ルーツを確認する場所、お骨の収蔵」が根幹である。これらの機能を有する建築物を提案する。

【お墓への最大のニーズは近さ】当建築物はアクセスの良い都市部を敷地とするが、その先駆けとして、お台場という常に未来に向かって新しい文化を発信・受容し続ける地で新しい文化の浸透を目指す。

【新しい故人の偲び方】宗教観、死生観に囚われず、訪れた人それぞれが相応しいと感じる空間にて、故人を偲び、納骨やルーツの確認を行う事が出来る。

当空間によりお墓に関する問題が解消され「明日への活力が湧いてくる」そんな建築物となるだろう。

comment

お墓は納骨の場だけでなく、自身のルーツを知り家系を守るための証しとして存在してきましたが、昨今の少子高齢化などの家族構成変化により、現在のお墓制度には限界があると感じ研究が始まり、起源と宗教政治、維持管理における経済的負担、霊園開発による自然破壊の問題点を、納骨・家系（自己のルーツを知る）・故人を偲ぶの3つの観点で解決しています。計画は東京湾岸部へ、3D 鉄骨シェル構造を利用して流れるような内部空間と前衛的なファサードとを表現する秀逸な作品です。

(担当教員：石崎 友久)

Masaaki Kotani

小谷 政明

埼玉県在住
不動産貸しビル業 役員
33 歳

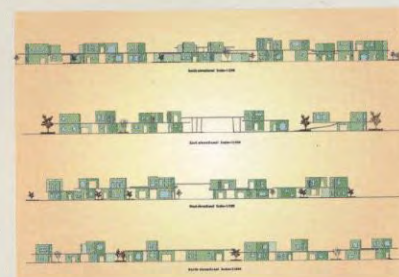
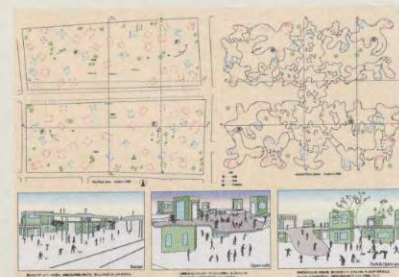


2004 年 青学大大学院電気電子工学専攻卒業
2004 年 ㈱ NTT データ入社 ゆうちょ銀行民営化システム開発に携わる
2010 年 不動産貸しビル事業（親族経営）に転職
2011 年 ㈱大林組から建築提案を受ける中で建築知識不足を痛感し ASU 入学

建築設計・CAD 操作等、全くの初心者でしたが、ASU の先生方の熱心な御指導（特に卒研を担当して頂いた石崎先生）、親身なアドバイスを下さった上原 OB、苦楽を分かち合ったゼミ仲間、模型の制作を手伝ってくれた妻の助けにより卒業研究の提出まで行えた事に感謝です。

今後 建築士資格取得を目指しますが、あくまで施主、ビル運営者の立場で ASU で学んだ事を最大限発揮していきたいです。

model & work panel



concept

ふれ合いを主体とした新たな商店街を提案する。計画地は岐阜県関市の本町一丁目とする。商店街は一丁目から7丁目まで続き、ここは一直線に続く商店街の始まりと終わりの部分である。また、周辺には私鉄である長良川鉄道が通っており、利便性が良く自然を取り込める場所である。アーケードが取り壊され、商店街の雰囲気が無くなり衰退が始まっている。そこでその場所をふれ合い・つながり・流れの3つで再構築する。

人の流れを川の流れに例え、通常川の流れは一定であり、石などの障害物によって川のその流れが変化する。その流れの変化により、一定の流れと緩やかな流れ（淀み）が生まれ、その淀み人が集まってくる。お店と客のつながり、ふれ合いとして、商店街は大きい通路に対して店舗が建ち並んで、閉鎖的であり、人々の交流が困難に。通路・店・客にそれぞれ分け、つながりの始まりはお店通しからであり、つながったお店が客とつながり、それを通路で囲み一つの家族単位とする。一つの家族が次の家族へとつながっていき、大きな家族になっていく。つながった家族の隙間に新たな共有空間が生まれ、人の流れ淀みとなる。流れ・ふれ合い・つながりを組み合わせることによって交差（通路）し、新しい大きな家族ができ、拡大していく。最終的にひとつのまとまった家族として、賑わいのある商店街となる。

comment

本作品は大型ショッピングセンターなどが乱立した事により、個性が埋没しつつある商店街を賑わいのあった風景に戻さなければならない切実な問題に対し、真摯に向き合った提案である。発想の原点は、川の流れに小石を投げると流れが変化し魚などが集まるである自然の姿を参考にしたという。同様に一定の流れが行き交う通りにいくつかの小さな建築が存在させることで緩やかな領域が創出し、その領域に新しい人々のネットワークを構成させたダイアグラムを高く評価した。そして、緩やかで軽やかな造形は通りを行き交う人々の心をも変化させる建築になるであろう。

(担当教員：濱田 修)

shinjisakaida

酒井田 真治

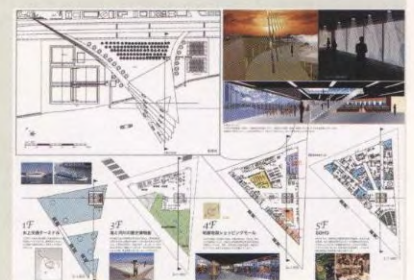
岐阜県関市在住
併修生（東海工業専門学校
金山校）（四月から現場監督）
22歳



専門学校2年間で、建築の基礎的な部分を学び、今後は造形的な部分を学びつつ大学の卒業資格を取得したかったから。今後は、現場監督として現場をまわりたい。

水上コンプレックスシティ

model & work panel



concept

本提案は SOHO と防災センターのある複合施設です。

江戸時代からの塩田の歴史や、それを行徳から日本橋までつなぐ水上交通のルートを生かし、現代に復活させるために、ビジネス関連・防災関連・歴史的背景から、何が必要か研究しました。

結果として、不足している SOHO オフィス、南北に通する水上バス、塩と河川の歴史博物館、伝統工芸品の展示販売、そして河川の氾濫による水害から市民を守るための防災センターを包括した建築が必要ではないかと考えました。

文化・歴史の啓蒙・継承と、それを経営資源とした新事業を推進し、歴史・生活・経済・安全を一体化した水上コンプレックスシティを提案します。

comment

行徳塩の運搬ルートの着目し、水上交通を復興させることで、地上交通の緩和・防災・ビジネスなどへの新たな可能性への提案を試みている。ダイナミックな建築デザインの背後にある丹念に研究された行徳塩と水上交通の文化、地域河川の防災計画、SOHO 需要の動向研究などが建築に説得力を与えている。埋没した歴史的文脈の再考が、今後の防災対策に対する新たな可能性となり得ることを示唆する興味深い提案である。

(担当教員：伊藤 潤一)

Asako Tanaka

田中 麻子

山形県在住
一般事務
30代



社内の総務部で本館内のレイアウト変更業務や、他ビルの改築などの業務に携わるうち、上司・ゼネコンとのやり取りの中で自分の知識不足を痛感して、もっと建築のことをわかりたいと思って愛知産業大学で本格的に学ぶことにしました。

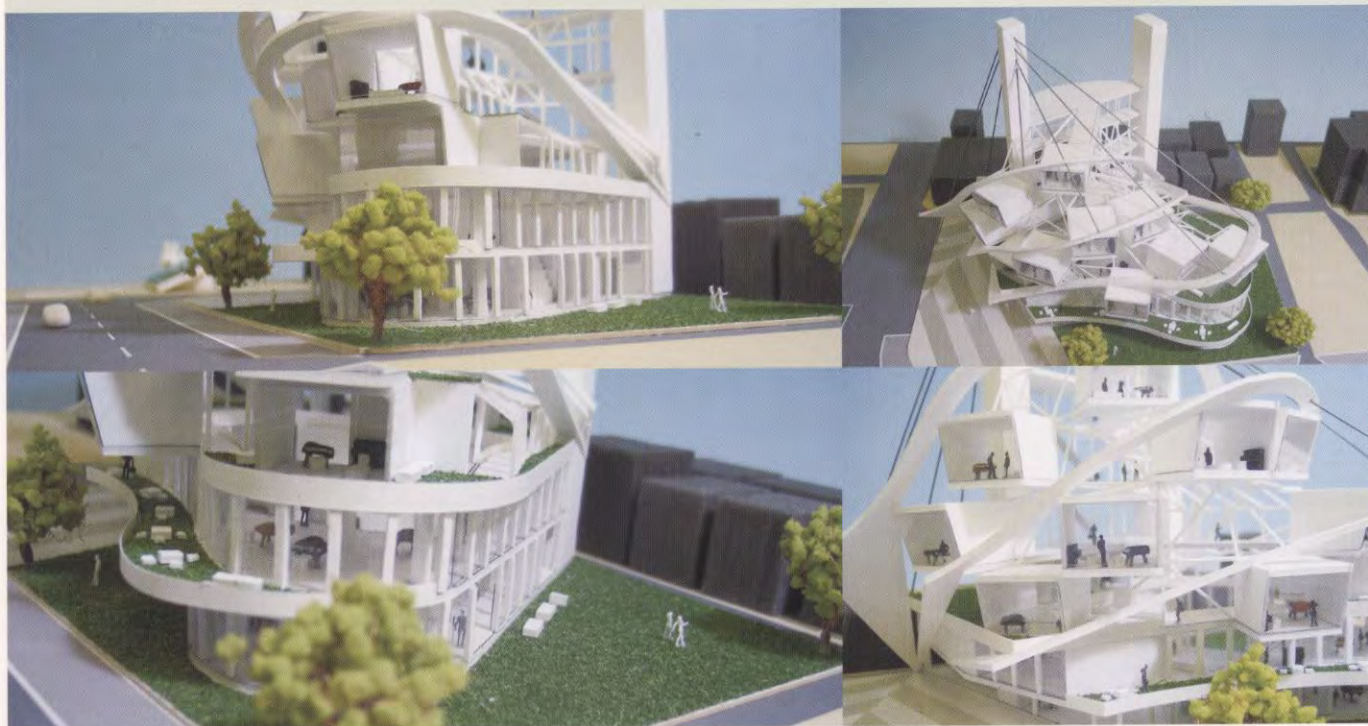
入学してからは初めて知ることばかりでしたが、特にミースの作品に触れ、学ぶうちにどんどん建築の面白さに引き込まれていきました。

これからは、まず個人で国内・海外の色々な建築物を見て回りと思っています。

そして学んだことを生かして、建築の仕事に関わり続けたいです。

最後になりましたが、ご指導いただいた諸先生方（特にゼミでお世話になった伊藤先生、松本先生）、ゼミの先輩・同期の仲間とお友達、すべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

model & work panel



concept

ピアノという楽器の豊富なバリエーションを伝え、日本人が持つピアノに対するイメージが変わるような施設の研究をしました。

ピアノをもっと知ってもらい、ピアノを楽しむという習慣や、楽器を伝承していくという文化が形成されることを目指しています。

comment

本作品の特徴は、綿密な検討の上に成り立つ大胆な造形である。初めからこのようなイメージがあったわけではない。身近なところから主題を選び、知識を活かした問題提起を行い、これに見合ったプログラムを作り、これにフィットする敷地を探し、建築としてのボリュームを検討し、基本的な構成を忠実に空間として立ち上げて全体の構成とスケールを検証する。こうした手続きを踏まえた上で、ようやく造形への取組みが始まった。こうした着実な積み重ねに裏打ちされているからこそ、思い切ったデザインが説得力を持って訴え掛けてくるし、私たちの想像力を喚起するのである。

(担当教員：久原 裕)

Shinjiro Nakagawa

中川 振二郎

埼玉県さいたま市在住
ピアノ調律師
35歳



楽器の仕事をしていると、必ず音の問題に直面します。都市生活の中で、思う存分楽器を楽しめる環境というのは少ないものです。

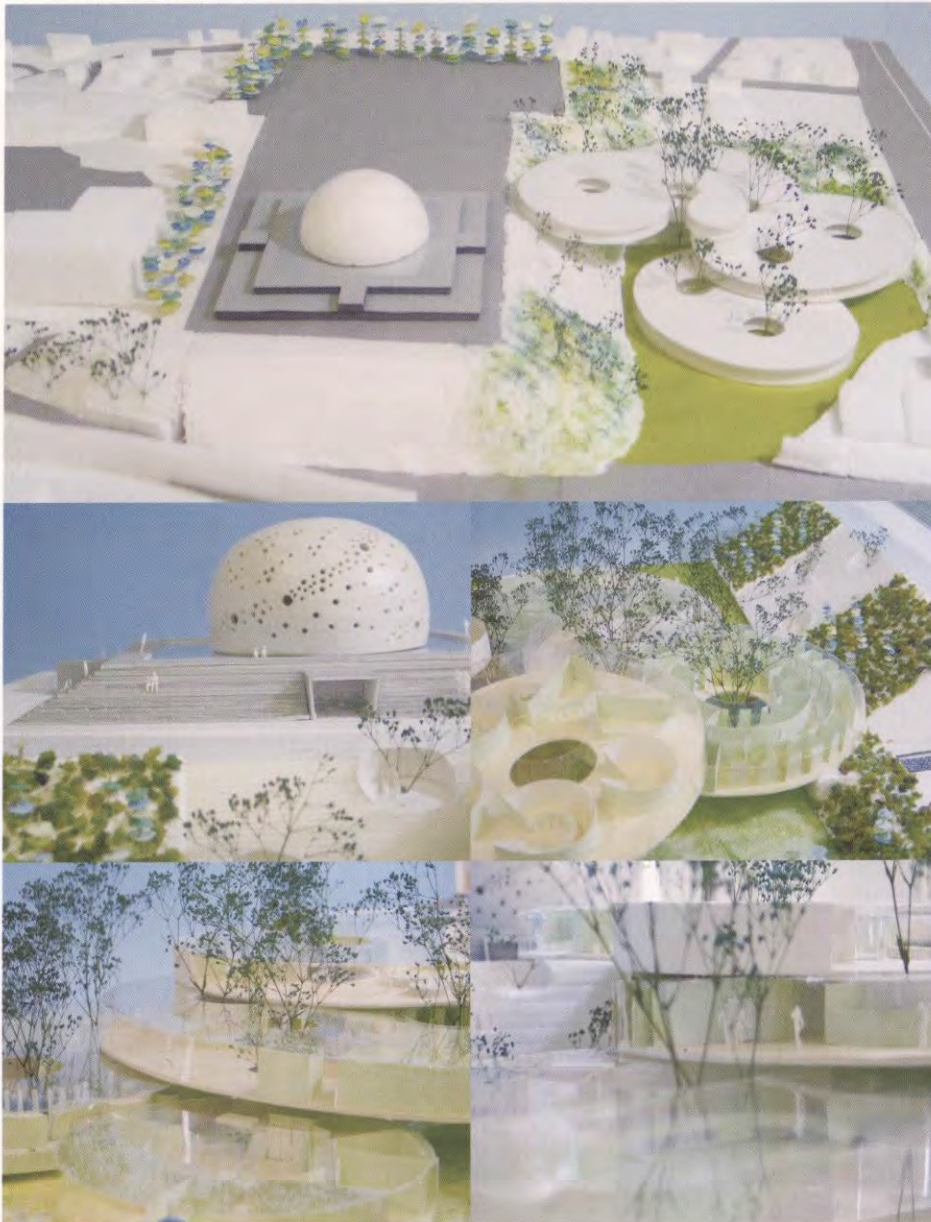
また、楽器の音は空間と大きく関係しています。防音空間や、音響空間を作るためには建築の知識が不可欠です。

こうしたきっかけから、建築士の資格取得を目指し、愛産大で学ぶことを選びました。

今後は、国家資格の試験に向けて勉強をしたいと思っています。そして、資格や知識を活かし、「思いきり音を楽しめる空間」を作る調律師を夢見ています。

人々をつつみ・癒し・希望へと導く空間がここにある ～ふたつの役割をもつ空間は人々を祈りの空間へと誘う～

model & work panel



concept

私のふるさと豊田市は挙母町として誕生しトヨタ自動車が「世界のトヨタ」となる今日まで共に繁栄してきました。

近年外国人労働者が急増し平成11年からの10年で外国人住民の人口は2倍に増加しました。市民が安心して住める魅力ある街づくりを目指す事で海外からも日本で住みやすく魅力ある都市として評価を得たいと思ひ外国人住民のサポート機能をもつ空間を作ろうと思ひました。

そしてもうひとつ市民の大きな不安材料となっている東海地震に備え市民の不安を軽減する役割をもつ空間を作りたいと思ひました。

豊田市を離れ生活したことがある私は、故郷への愛着を感じ豊田市が市民の離れがたい故郷となることを願ひ魅力ある機能をもつ空間の計画しました。

comment

コンビニ、建設現場、大学でも、外国人労働者や留学生の姿をよく見かけるようになった。日本は、もう外国人の力を借りなければ、持続できない環境にある。これから、どう共にくらししていくのかを問う作品である。計画では、日常の生活をサポートする国際センターと精神的に心の支えとなる祈りの空間から成り、勾玉の形が各階で回転していく動きのある造形から、光と水の音を感じる静かな空間についていく構成が興味深い。人が人のことを考え、思いやり、不安や孤独を希望に導こうとする気持ちが込められた力作です。

(担当教員：宮崎 晋一)

Riko Hiramatsu

平松 里香

愛知県在住
自動車メーカー勤務
30代



私は昔から住宅が大好きでした。

ある日、ある建材屋の新しい事務所の前を通った時「私、こんな住宅概念を超えた家建てたかったんだよね～建築家になりたいかったな。」と姉に言ったら「今からでも勉強してなればいじゃん、年齢制限ないでしょ!？」と言われました。・・・こんな些細な会話から私の挑戦が始まり、今年卒業研究を終え卒業します。

在学の2年間は<一度の人生、やらずに後悔するなら、やって悔めればいよう>そう強く思い、毎日勉強をしました。私が努力し続けたのは、熱意のある温かい先生方や共に励まし合い刺激し合う学友に出会えたからです。

私の卒業後の人生設計は30代で2級建築士の資格を取得し40代は、「愛ある建築家」をもちょうに日々努力し、豊かな知識と経験を身につけ50代は、縁ある多くの家族に寄り添う居住空間を考えつくり続け60代は、日本の建築空間が更に豊かになるために、建築志望の若者の可能性を引き出したい。若い新芽を伸ばす為に、「ワクワクする記号」を与えられる様な心も知識・経験も豊かな備前になりたいです。

以上、これからは更に「建築バカ」と言われる日々を過ごしていきます!

model & work panel



concept

昔の街には多くの路地があり、コミュニティは路地によって繋がれていた。路地には小さな子供から高齢の方まで世代の隔たりなど無く、交流が盛んであった。コミュニケーション豊かな空間から得る人々の暖かさ（人情）、地域の助け合い、子供たちの教育。これらが、失われて交流が希薄化され、地域のつながりも崩壊していったのではないだろうか。

密集地の中にも使われていない空間は多く存在する。その空間を利用し人々を町に誘い込む。路地は利便性だけを追求するものではなく瞑想（迷走）する（先に何があるか？）することで心と体を使い、新たな発掘が可能なおもしろい、わくわくする街にリノベーションする。

失われたものを蘇らせ、更に充実した生活を送れる町づくりを考察する。

comment

この作品は大阪の東、典型的スプロール地域で猥雑感あふれる千林のまちでの再開発計画です。通常再開発といえば、全面クリアランスして高層ビルに建て替えるか、現状を尊重しつつ部分改修を積み重ねるかになるでしょう。しかしここで作者が提示しているのはそのどちらでもなく、近隣住区の親しみやすさや猥雑感を残しながら全面建て替えをするという方法です。それはとりもなおさず、『建築設計』と『都市計画』とが別々のものではなく、統合的に機能を発揮することの大切さを提示していると思います。

（担当教員：宮武 仁）

Yoshihiro Minato

湊 吉央

大阪府在住
建築金物・住宅設備メーカー 商品開発
35歳



入学のきっかけは、自己啓発です。より多くの情報と知識が業務には必要不可欠ですので再度学習が必要と思いました。

通信教育は自分のペースで学習することができ、仕事しながら学習できることが私には最適でした。

また、様々な方々の設計理論（デザイン方法）が良い刺激でした。

今後の予定は、学習した知識を仕事に活かしていきたいと思っています。

新宿スカイフォレスト 緑と水でコレマデとコレカラをつなぐ

model & work panel



concept

新宿駅のヒートアイランド対策、都市問題解決のため、新宿駅と新宿御苑をつなぐ甲州街道の上空に歩道専用のなだらかな丘のような緑地空間をつくり、そこにかつて存在した玉川上水を復元する。その空間を軸として街を歴史文化的なエリアとして整備する。

具体的には、隣接した老朽化したビルを文化レジャー施設が入った複合ビルに建て替え、さらに歴史的文化遺産周辺を整備し、美しくよみがえらせる。

歴史と現在、自然と街、それらを立体的に回遊し、つなげることで、世界一の乗降客数を誇る新宿駅エリアが繁華街・オフィス街、また交通機関の繋ぎ役としてだけでなく魅力的な文化都市として、人々の憩いの場となるように提案した。

comment

巨大化した都市をもっと優しく！

人間回復に向けた高度化した都市へのアンチテーゼは世の常でもある。我々は高度に発達し密度を高めていったことで様々な摩擦を生み、造り上げてきたものが一気に崩壊する恐れを常に抱きながら生活をしている。過度な自己増殖による自己破壊もあり、時には大地震、時には争いで、時には経済戦争で破れ、時には自然の破壊を繰り返した結果による自然災害で、そして時には映画「猿の惑星」で見られたようにNYの自由の女神の頭と右手のトーチカが虚しく浜辺に崩れかけて残っている様は今でも衝撃的に恐怖感を覚えているが、人類滅亡により、アカデミックに建築や都市の有り方を考察する中からだけでは本当の真理は掴めない。心から湧き出る恐怖心に打ち勝つ夢の解決案に希望を見だしポジティブに突き進んでみたい。ふわっと今の負の遺産を覆い隠したい、そして新たな理想郷をその上に作り重ねてゆきたい。そしてそれは緑と水に溢れた自然豊かで疲弊した都市住民がエスケープするほっとできる空間。ここからはじめて次々に緑豊かな新しい空間が既存のビル群が霜柱のようにこれを支えながら増殖していった欲しい。私は彼女の作品からはそう思わせる夢とエネルギーを感じた。

(担当教員：白濱 力)

Yoko Yashiro

八尋 陽子

神奈川県在住
CADオペレーター
40代



夫の転勤・単身赴任で落ち着いた年を経、子育ても一段落した頃にCADを学び、図面をきちんと理解したいと思っていた時、愛産大通信の存在を知りました。

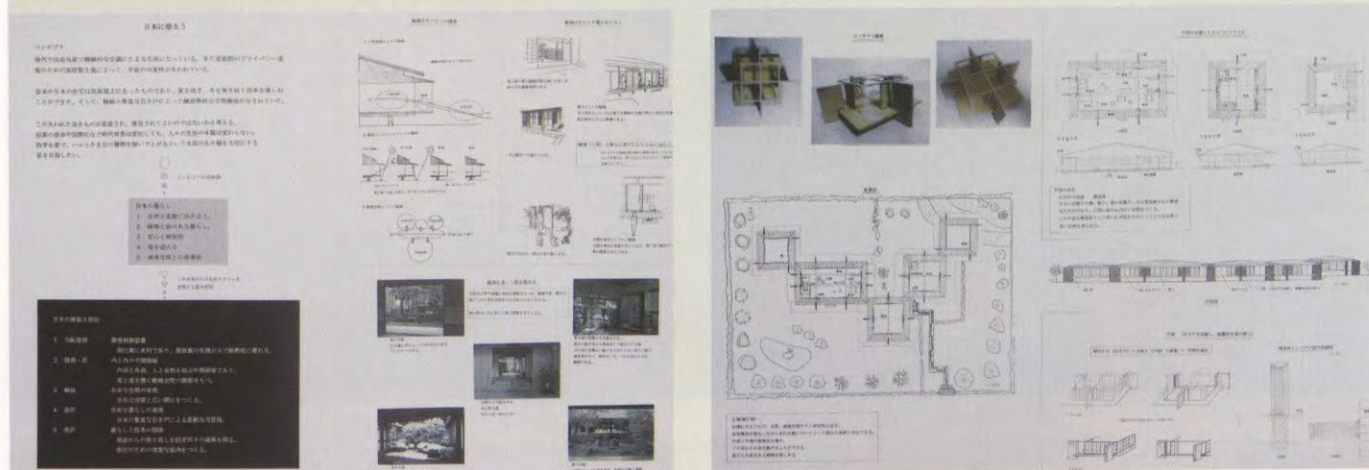
この歳から建築の勉強を始める事に躊躇はしましたが、意を決して入学しました。

ハードスケジュールながらも楽しく取り組む事が出来ているのは、好きであった事、詰め込みではなく建築に対して深く考える日々の充実感があったからです。何よりも先生方のきめ細かな温かいご指導が励みになりました。又、スクーリングで一緒に過ごした方々との交流、周囲の協力にも心から感謝しています。

まだ在学中ですので、今後は基本をしっかり身につけて少しでも洗練された設計が出来るようになり、それを活かす機会があれば幸いです。

「守屋賞」は、2009年度に創設されました。本学科の方針を形づくった守屋弓男教授に因むもので、社会人が自ら仕事や日常で、経験をいかした眼差しをとおして社会の問題を捉え、建築の造形によってそれに応えるという、本学で学ぶ本質が際立った卒業研究に授与するものです。

model & work panel



concept

現代では高気密で、部屋数主義によって、平面の可変性がうしなわれている。従来の日本の住宅は気候風土に合ったものであり、軸組と豊富な引き戸によって自由な空間構成がなされていた。この古き良きものを見直し現代の生活にもあった、住宅をかんがえたい。

comment

高断熱・高気密化された西洋風の住まいが普及した今日の日本・・・果たしてこれで良かったのだろうか？
何か？大切なことを忘れてしまったのではないか？
本作品は古き良き時代を懐かしむものではなく、本来、日本の住まいがもつ素晴らしい意匠・機能を再確認し、自然とともに豊かに暮らす・・・住まいの新たな「型」の提案となっている。
四季とは？…庭とは？…日本の暮らしとは？…を感じさせる作品である。

(担当教員：瀧澤 三男)

Yo Yamamoto

山本 ヤウ

千葉県在住
主婦
66歳



建築家になるとすれば、果して何年掛かるのでしょうか？もう少し、いえもっとずっと若い頃に一步を踏み出してれば・・・と悔やまないことにはします。

お心の広く、暖かい先生方のご指導と、優しく頼もしい同級生に助けられ2年間があっという間に過ぎてしまいました。感謝の気持ちで一杯です。この素晴らしい出合いは、このタイミングだからこそなのだと思うからです。

これからも楽しく建築を学ばうれば資格をとって、少しでも斯界に関わっていければと、年を忘れて思っております。

公開講評会の開催



平成24年度 建築卒業研究展 卒業研究公開講評会

日 時

平成25年3月2日(土)
13:00~16:00 (開場12:30)

場 所

名古屋都市センター11階
[金山南ビル/名古屋市中区金山町1-1-1]
卒業研究展会場および大研修室(ホール)

主 催

愛知産業大学通信教育部 造形学部 建築学科

ゲスト講師

鈴木 利 明 / 日本設計 中部支社、JIA愛知 会長
谷 村 留 都 / アールアンドエス設計工房
山田久仁夫 / 山田デザイン事務所

発表者

- | | |
|-----------|--|
| 伊藤 大輔 さん | imitation green |
| 狗田 将明 さん | 荒神山飛行研究所 |
| 黒木 勇太郎 さん | セミラミスの庭 ~ 植物たちの空中庭園 ~ |
| 小谷 政明 さん | Dear roots 都市部における故人を偲ぶ空間の創設 |
| 酒井田 真治 さん | The contact town ~ 新たな商店街を目指して ~ |
| 田中 麻子 さん | 水上コンプレックスシティ |
| 平松 里香 さん | 人々をつつみ・癒し・希望へと導く空間がここにある
~ ふたつの役割をもつ空間は人々を祈りの空間へと誘う ~ |
| 宮内 均彰 さん | 伝統文化教育施設「まほろば本塾」の設計
都市と農村をつなぐ事を目的とする建築に関する研究 |
| 八尋 陽子 さん | 新宿スカイフォレスト 緑と水でコレマデとコレカラをつなぐ |

愛知産業大学通信教育部建築学科では、社会人をはじめ様々なバックグラウンドを持つ学生が、キャンパスを離れたそれぞれの生活の場を手がかりに建築を学び、卒業研究に取り組みます。
今年も意欲的な研究が97点あつまり、その中から選ばれた17点による卒業研究展を名古屋と東京で開催します。

この機会を活かし学外の専門家や研究者を招き「公開講評会」を開催いたします。

建築は、社会との関わりの中で考えられ構築され評価されるもので、それは卒業研究といえども変わりません。

広くいろいろな方からの忌憚ないご意見、ご批判を賜ることで、学生も大学もより成長できると思います。



卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

会場	名古屋都市センター 企画展示コーナー (金山南ビル 11F) 〒460-0023 名古屋市中区金山一丁目1-1
会期	2013年2月19日(火)~3月3日(日)
時間	10:00~18:00(火~木)・10:00~20:00(金) 10:00~17:00(土日)
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品17点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー (日本建築学会会館1F) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2013年3月30日(土)~4月1日(月)
時間	10:00~18:00
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品17点
入場料	無 料

学外の建築系卒業展覧会



第36回学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

主催	学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠 主催 展覧会
会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコモン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2013年5月6日(月)~5月9日(木)
時間	10:00~19:00 ※最終日は16:00まで
内容	全国から約100作品出展 愛知産業大学からは近藤宏亮さんの作品(p.6-7)を出展
入場料	無 料



第54回全国大学・高専卒業設計展示会

主催	日本建築学会・各支部
会場	全国各地35会場を巡回
会期	2013年5月中旬~2月中旬迄 (各会場共 3日間程度開催の後、巡回)
時間	各会場毎に異なります
内容	全国大学・高専より約170作品展示予定 本校からは宮内均彰さんの作品(p.4-5)を出展
入場料	無 料



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

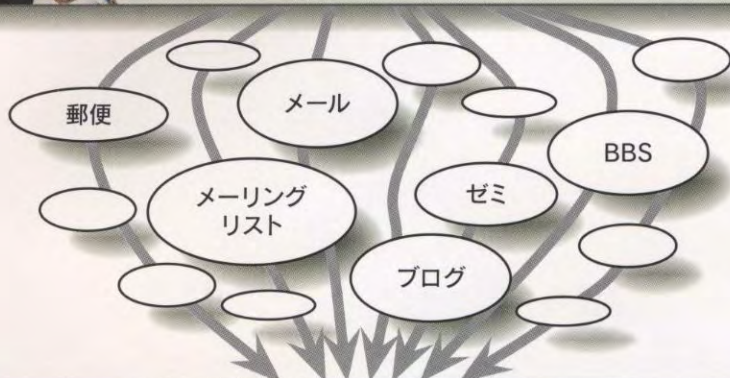
(平成25年度の予定)



卒業研究オリエンテーション

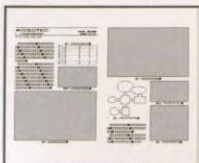
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

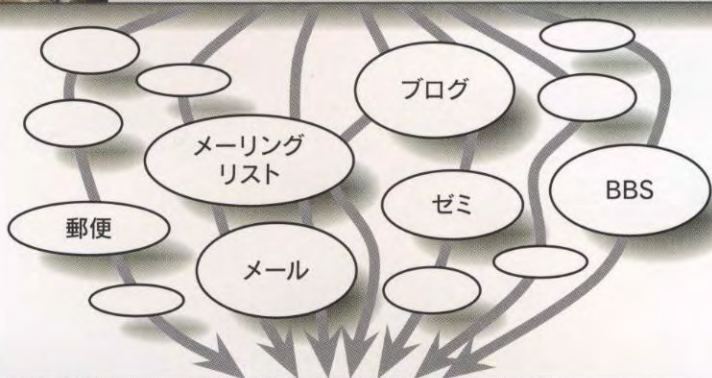
- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



作品審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・パネルとスタディ模型を用いたポスターセッション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・完成模型の制作



最終面接審査

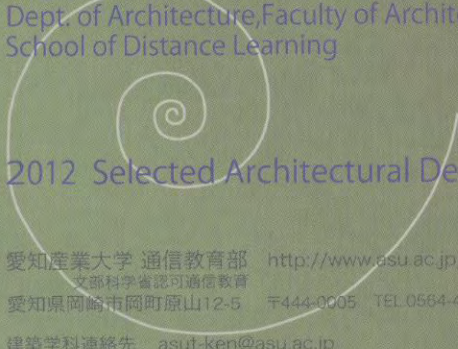
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・完成したパネルと模型を用いたプレゼンテーション

合否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載しておりません

AICHI SANGYO UNIVERSITY
Dept. of Architecture, Faculty of Architecture and Design,
School of Distance Learning



2012 Selected Architectural Designs of ASU

愛知産業大学 通信教育部 <http://www.asu.ac.jp/tsukyo/>

文部科学省認可通信教育
愛知県岡崎市岡町原山12-5 〒444-0005 TEL.0564-48-8282 FAX.0564-48-8270

建築学科連絡先 asut-ken@asu.ac.jp